

都市再生整備計画(第4回変更)

宝塚中心市街地(第二期)地区

兵庫県 宝塚市

平成31年1月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	兵庫県	市町村名	宝塚市	地区名	宝塚中心市街地(第二期)地区	面積	69 ha
計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	交付期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度				

目標
 大目標 魅力ある都市機能の集積と文化・芸術を通じた交流の活発化による活力と賑わいのあるまちづくり
 目標1 中心市街地にふさわしい宝塚らしい文化・芸術の交流拠点の整備と既存の観光・文化資源とのネットワークの形成による宝塚の新たな魅力と活力の創造
 目標2 市民や事業者など多様な主体が実施する文化・芸術活動等による人の交流の活発化と賑わいのあるまちづくりの推進

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 ○中心市街地を取り巻く状況
 ・本市は、宝塚歌劇、宝塚温泉や武田尾温泉、清荒神や中山寺などの神社仏閣、小浜宿などの歴史的資源、阪神競馬場やゴルフ場、長尾地区の植木・花卉産業などの豊富な観光・レクリエーション資源を有しており、観光入込客数は、平成5年の約1,200万人をピークに1,000万人を超える状況であった。特に、宝塚・宝塚南口地区は、歌劇と温泉、宝塚ファミリーランド、市立手塚治虫記念館など宝塚らしさを構成する地域固有の資源が集中しており、同地区の観光入込客数はおおむね400万人前後で、本市の中心的な位置を占めてきた。
 ・平成15年4月の宝塚ファミリーランドの閉園以後、同地区の観光入込客数は、平成14年度の約410万人から平成15年度は約170万人に、平成23年度は約150万人に減少した。
 ・宝塚ファミリーランドの跡地に開園していた宝塚ガーデンフィールズが平成25年12月下旬に閉園し、その跡地は民間による開発が進められている。
 ・相次ぐ郊外型大型店舗の進出や近年の社会経済情勢による消費の低迷などにより商業機能が低下し、中心市街地の活力は低下している。
 ○本地区の特徴
 ・本地区は、土地利用の状況や都市施設の集積状況などから、商業・業務、観光、文化、交通などの中心であり、1世紀にわたり本市の「観光都市」としての顔となってきた地区である。
 ・JR宝塚駅、阪急宝塚駅及び宝塚南口駅が接続するとともに、広域幹線道の国道176号が通過し、また、歌劇や温泉、宝塚ガーデンフィールズ、市立手塚治虫記念館などが立地していることから、市内外から多くの人が訪れている。
 ○本地区におけるまちづくりの経緯
 ・昭和51年～平成13年(完成年度)にかけて、都市における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図ることを目的として市街地再開発事業等を実施し、中心市街地としての機能の向上や環境・景観の整備及び活性化に努めてきた。
 ・本地区を含む区域において、中心市街地活性化基本計画の認定を受け、中心市街地の機能回復、郊外への拡散の防止、公共交通の利用促進に取り組んできた。(平成20年3月～24年3月)
 ・平成17年度～21年度にかけて実施したまちづくり交付金事業(宝塚中心市街地地区)等により、市立宝塚文化創造館(宝塚音楽学校旧校舎)及び花のみち・さくら橋公園等の整備や大学・市民等による河川敷でのオープンカフェ、イルミネーションイベント等が実現された。
 ○まちづくりの気運
 ・宝塚ファミリーランドの閉園は、経営母体(阪急電鉄)を同じくする宝塚歌劇の存続の危機感を生み、歌劇を市民とともに守り、育てるという気運が市民の間でも醸成されてきており、平成26年の宝塚歌劇100周年を契機に、市をあげて宝塚歌劇を支援する取り組みを進めることとしている。
 ・また、宝塚ガーデンフィールズ内の英国風庭園「シーズズ」(約0.9ha)は、宝塚ファミリーランド時代からの樹木や庭園に多様な生物が息息する貴重な空間であり、文化、観光の資源としての位置づけと併せ、緑地帯の保存や再活用を要望する市民運動が起きている。

課題
 集客施設としての効用のみならず、貴重な緑地として中心市街地の良好な都市環境に寄与してきた宝塚ガーデンフィールズの閉園により、
 ・交流拠点のひとつを失うことによる集客力の低下
 ・都市に潤いをもたらす緑地の喪失
 が懸念されるため、
 ・本地区固有の観光・文化資源を充実し活かすとともに、新たな魅力の創出により本地区のアイデンティティを再構築し発信する方策
 ・市民と多様な主体が連携した「おもてなしの心あふれる」文化発信のイベント等の取り組みによる活力と賑わいの創出
 ・市民に親しまれてきた緑地の保全
 が求められる。
 また、中心市街地の道路の一部では歩道の整備が不十分な箇所があり、市民や訪れる観光客等の安全確保を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)
 【第5次宝塚市総合計画(平成23年度～32年度)】
 ・本地区の将来都市構造は、①全市民や来訪者のために必要な都市機能の集積を促進し、②宝塚歌劇をはじめとする広域圏を対象とした観光・文化の拠点であるとともに、市民と来訪者が集い、交流する拠点として多様な集客拠点にふさわしい複合的な都市機能の集積を図ることとしている。
 【たからづか都市計画マスタープラン(平成24年度～33年度)】
 ・本地区は、宝塚らしい観光・文化・芸術の拠点としての機能を強化し、また、市民と来訪者が集い、交流する拠点として、多様な集客拠点にふさわしい複合的な都市機能の集積を図り、新たな魅力づくりを通じて都心観光商業地としてポテンシャルの向上に努めることとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
中心市街地の公共施設利用者数	人/年度	主要観光・文化等集客施設(宝塚大劇場、手塚治虫記念館、宝塚文化創造館、(仮称)宝塚地域交流センター)の利用者数	新たな魅力の創造により集客力の向上を図る。主要な観光・文化等集客施設への来訪者数を12%増と見込む。	1,157,372人	H24	1,302,000	H30
中心市街地の鉄道駅の乗降者数	人/日	JR・阪急宝塚駅、阪急宝塚南口駅の一日平均乗降者数	訪れてみたいまちづくりによる賑わいの創出を図る。鉄道駅の乗降者数を3%増と見込む。	127,995人	H24	132,000人	H30
イベント開催回数	回/年度	中心市街地(地区内)における協働によるイベント数	市民との協働の推進の指標として地区内での活動開催回数を20%増と見込む。	18回	H24	22回	H30

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>○整備方針1 【中心市街地にふさわしい宝塚らしい文化・芸術の交流拠点の整備と既存の観光・文化資源とのネットワークの形成による宝塚の新たな魅力と活力の創造】 ・平成25年12月下旬に閉園した宝塚ガーデンフィールズの跡地を活用して緑に囲まれた交流拠点を整備し、集客・交流・文化・芸術機能の充実を図る。 ・観光プロムナードや市立手塚治虫記念館、周辺道路などとの一体的な整備を行い、既存の観光・文化資源などの有効活用と回遊性の確保により賑わいの再生を図る。</p>	<p>■基幹事業 ・高次都市施設：(仮称)宝塚地域交流センター整備 ・道路：市道新設整備 ・公園：(仮称)宝塚武庫川町公園整備(既存庭園を生かした) ・高質空間形成施設：(仮称)宝塚地域交流センター屋上庭園</p> <p>□提案事業 ・地域創造支援事業：市立手塚治虫記念館スロープ撤去・新設</p> <p>○関連事業 ※参考記載 ・宝塚ガーデンフィールズ跡地開発事業(土地区画整理事業)</p>
<p>○整備方針2 【市民や事業者など多様な主体が実施する文化・芸術活動等による人の交流の活発化と賑わいのあるまちづくりの推進】 ・観光プロムナード周辺施設などを活用し、市民と来訪者、市民と市民の交流を促進し賑わいの創出を図るため、官民協働による交流イベントなどの実施を行う。 ・従来から推進してきた官民協働のまちづくりをさらに進め、市民や事業者など多様な主体の連携による宝塚らしい地域活動の活発化や情報の発信により、まちの魅力の向上を図る。</p>	<p>■基幹事業 ・地域生活基盤施設：駅前広場整備、歩行者誘導サイン整備 ・高質空間形成施設：モニュメント整備、ベンチ設置</p> <p>□提案事業 ・地域創造支援事業：地域活性化イベント等の実施 ・まちづくり活動推進事業：ワークショップの開催</p> <p>○関連事業 ※参考記載 ・トリプル周年記念事業(市制60周年・宝塚歌劇100周年・市立手塚治虫記念館開館20周年)(再掲)</p>
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

たからづかちゆうしんしがいち だいにき ちく ひょうごけんたからづかし 宝塚中心市街地(第二期)地区(兵庫県宝塚市)	面積	69 ha	区域	むごわらう umeのらう さかえまち ちようめ ちようめ かわも ちようめ ゆもちよう むこやま ちようめ ちようめ 武庫川町、梅野町の全部と栄町1丁目、2丁目、川面5丁目、湯本町、武庫山1丁目、2丁目、南口1丁目、2丁目の一部
--	----	-------	----	---

